

## 府・国・地研関連事業

### 1) 感染症発生動向調査事業

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市の協力のもと実施している事業であり、大きく全数把握対象疾患と定点把握対象疾患に分けられる。把握対象疾患の患者情報は大阪府内の指定届出機関（定点）から収集されたデータを、厚生労働省からの全国情報とともに感染症情報センターで検討し、感染症情報解析評価委員会（小委員会）に報告した。平成 27 年の指定機関数は、インフルエンザ定点 307・小児科定点 201・眼科定点 52・STD 定点 65 および基幹定点 18 であった。これらのデータは、保健所・府内の各市町村・定点へ還元し、当所のホームページに掲載し府民に広く提供した。また、定点把握対象疾患の病原体サーベイランスとして、府内の定点医療機関から依頼のあった 684 検体について感染症部において病原体検索を行い、結果を速やかに還元するように努めた。検査結果のまとめは、感染症発生動向調査事業報告書第 34 報（平成 27 年版）に掲載された。（文責：西村）

### 2) 厚生労働省感染流行予測調査事業

#### (1) 侵襲性肺炎球菌感染症

平成 26 年度より大阪府内の医療機関で血液・髄液から検出された肺炎球菌を収集し、血清型別を実施している。平成 27 年度は、高齢者（60 歳以上）由来 65 株、小児（9 ヶ月～9 歳）由来 22 株を含む全 102 株について解析を行った。高齢者における 23 価ワクチンのカバー率は 73.8%、小児における 13 価ワクチンのカバー率は 13.6%となり、小児においてはワクチンによる高い予防効果が見られたものの、高齢者ではワクチンがまだ普及途上であり今のところ明らかな効果は見られていないと考えられた。（主担：河原、勝川）

#### (2) 侵襲性インフルエンザ菌感染症

平成 26 年度より大阪府内の医療機関で血液・髄液から検出されたインフルエンザ菌を収集し、血清型別を実施している。平成 27 年度は、高齢者（60 歳以上）由来 10 株、小児（6 歳）由来 2 株を含む全 13 株について解析を行った。血清型の内訳は、型別不能 8 株（NT、

61.5%）、f 型 5 株（38.5%）となり、ヒブワクチンの対象である b 型株は検出されなかった。（主担：河原、勝川）

#### (3) 麻しんウイルス感受性調査

昨年度に引き続き、本年度も 232 名を対象に麻しんウイルスに対する抗体価を測定し、抗体保有率を求めた。1:16 以上を PA 抗体陽性とする年齢群別抗体保有率は、0～1 歳児 50.0%（11/22）、2～3 歳児では 100%（22/22）、4～9 歳児では 100%（22/22）であり、第 1 期および 2 期の定期接種が適切になされていると考えられた。10 歳以上の年齢層での抗体保有率は 99.4%（165/166）で、いずれの年代も集団免疫に必要な 95%を上回っていた。（主担：倉田、山元）

#### (4) 水痘ウイルス感受性調査

本年度は 232 名を対象に水痘ウイルス抗体価を測定した。測定は酵素免疫法（EIA 法）で行い、EIA 価で 4 以上を陽性とする年齢群別抗体保有率は、0～1 歳児 27.2%（6/22）、2～3 歳児 63.6%（14/22）、4～9 歳児 59.1%（13/22）、10 歳代 98.0%（48/49）、20 歳代 94.1%（32/34）、30 歳代以上はいずれも 100%であった。平成 26 年 10 月から水痘ワクチンの定期接種が開始されたため、対象となった 2～3 歳児の抗体保有率が昨年の 4.6 倍に増加した。一方で、定期接種対象外の 4～9 歳児での抗体保有率が低い傾向がみられた。今後も水痘ワクチン定期接種化に伴う抗体保有率の推移を継続的に調査する必要があると考えられた。

（主担：倉田）

#### (5) 日本脳炎感受性調査

2015 年度に実施した調査では、0 歳から 62 歳までの計 232 人について日本脳炎ウイルスに対する血清中の中和抗体価を測定した結果、56.9%（132 名）が抗体陽性（10 倍以上）であった。日本脳炎ウイルスワクチンの定期接種開始年齢である 3 歳の抗体保有率は 66.7%、その後 4～15 歳では 100%で非常に高い抗体保有率であった。また、近年の国内での傾向として、小児より中高年齢層の日本脳炎の患者が多い。本年度の成人の抗体保有率は 20 歳代で 79.4%あるのに対し、30 歳代 47.8%、40 歳代 18.5%、50 歳代 4.5%、60 歳代

18.2%と、中高年齢層の抗体保有率は非常に低く、これらの年代では日本脳炎への防御力が弱くなっていると考えられた。(主担:青山)

#### (6) ヒトパピローマウイルスの感受性調査

2015年度は、成人117名(20～60歳代、男性80名、女性37名)についてヒトパピローマウイルス(HPV)に対する抗体保有調査を行った。酵素免疫法(EIA法)により抗体価を測定した結果、抗体陽性と判定されるEIA価4以上を示したものは21名(男性9名、女性12名、うち3名はHPVワクチン接種者)であり、男性は40～50歳代、女性は20～30歳代に集中していた。

(主担:森、倉田、山元)

### 3) 病原性微生物検出情報への協力

国立感染症研究所が月報として発行する病原微生物検出情報に参画し、細菌及びウイルス検出情報を提供した。

### 4) 地方衛生研究所全国協議会における活動

- ・第1回理事会:平成27年5月11日(東京都)
- ・全国地方衛生研究所長会議:平成27年6月4日(東京都)
- ・臨時総会・第1回ブロック長会議:平成27年6月5日(東京都)
- ・第2回理事会:平成27年8月31日(東京都)
- ・総会:平成27年11月3日(長崎市)
- ・第2回ブロック長会議:平成28年1月25日(埼玉県)

### 5) 地研全国協議会近畿支部における活動

- ・第1回総会:平成27年5月12日(大阪府)
- ・第1回支部役員会:平成27年7月10日(大阪府)
- ・第1回近畿ブロック会議及び第2回総会:平成27年7月28日(堺市)
- ・第2回近畿ブロック会議及び第3回総会:平成28年1月22日(大阪府)

(文責:起橋)

### 6) 地研全国協議会近畿支部の部会活動

#### 【疫学情報部会】

平成27年12月11日、京都市産業技術研究所において第31回疫学情報部会定期研究会が開催された。概要は以下の内容で行なわれた。

- ・平成27年度地域保健総合推進事業に係る近畿ブロッ

ク「精度管理事業」検証会

- ・特別講演「広島県の感染対策と広島県感染症・疾病管理センターの役割」
- ・一般演題「腸管出血性大腸菌O157の分子疫学的解析について」「京都市における自殺の疫学」
- ・感染症情報センター意見交換会「デング熱の事例検討ーリスク評価を中心にー」
- ・教育講演「健康情報学への招待:情報をつくる・つたえる・つかう」(文責:起橋)

#### 【細菌部会】

平成27年11月27日に第42回地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会研究会が滋賀県庁で開催された。当所から11名が参加した。研究会の内容は以下のとおりであった。

- ・地衛研全国協議会報告
  - ・衛生微生物技術協議会報告(資料報告および口頭報告)
    - 結核、カンピロバクター、レジオネラ、ボツリヌス、動物由来感染症、レンサ球菌、ジフテリア・百日咳、リケッチア、大腸菌、薬剤耐性菌の各レファレンスセンター会議報告および検査情報委員会報告
  - ・情報交換「食品収去細菌検査について」、「リステリア検査について」、「カンピロバクター検査について」
  - ・一般演題 6題
  - ・特別講演 2題
- 「カンピロバクター食中毒の疫学と食肉衛生に係る課題」

国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部第一室長  
朝倉 宏

「国内の新たなリステリア基準における国政整合性」

国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部長

五十君静真

(文責:田丸)

#### 【ウイルス部会】

平成27年10月2日(金)、神戸市勤労会館3階308号室において地研近畿支部ウイルス部会研究会が開催された。

部会長である神戸市環境保健研究所の飯島義雄所長及び地研近畿支部長山本容正大阪府立公衆衛生研究所長の挨拶のあと、以下のプログラムで進行した。

- ・ウイルス感染症等に関するレファレンス報告 9題
- ・ウイルス情報交換会 6題
- ・一般演題 3題

- ・特別講演 1 ウイルス感染症の診断 — 37 年を振り返って—

大阪府立公衆衛生研究所 加瀬 哲男

- ・特別講演 2 感染症法改正に伴う病原体サーベイランスと信頼性確保について

国立感染症研究所 吉田 弘

講演終了後、神戸市環境保健研究所都倉亮道感染症部長の閉会の挨拶をもって終了した。 (文責: 弓指)

#### 【理化学部会】

平成 27 年 7 月 13 日に兵庫県立健康生活科学研究所で開催された平成 27 年度地研全国協議会近畿支部理化学部会役員会に当研究所から 1 名が出席し、27 年度近畿支部理化学部会の活動および研修会開催日などについて調整した。また、「清涼飲料水の規格基準の改定に伴う各地研の対応状況」、「アゾ色素を含有する家庭用品の検査対応」、「残留農薬試験の検体収去量」等について意見交換が行われた。

平成 27 年 11 月 13 日に平成 27 年度近畿支部理化学部会研修会が神戸市教育会館で開催された (参加者 75 名)。研修会では、特別講演として厚生労働省近畿厚生

局麻薬取締部 鑑定課長 高木敏之氏による講演が行われた (講演題目: 攻防危険ドラッグ~私達の命を守るために~)。また、記念講演 3 題と 4 題の一般発表も行われた。 (文責: 梶村)

#### 【自然毒部会】

平成 27 年 7 月 2 日に和歌山県庁南別館で開催された平成 27 年度地研全国協議会近畿支部自然毒部会世話人会に当研究所から 1 名が出席し、27 年度近畿支部自然毒部会研究発表会の企画および開催日などについて調整した。また、「生体試料の取扱いについて」、「オカダ酸の機器分析法の導入状況」、「自然毒検査マニュアルの整備状況」等について意見交換が行われた。

平成 27 年 11 月 20 日に平成 27 年度近畿支部自然毒部会研究発表会が和歌山市役所で開催された (参加者 125 名)。発表会では、特別講演として警察庁科学警察研究所の太田彦人氏による講演が行われた (講演題目: 食品中・生体試料中の毒物分析 - 天然毒分析を中心として-)。また、教育講演や記念講演、4 題の一般発表、事例発表も行われた。 (文責: 梶村)